

まえがき

今年度は、昨年度まで3年間続けたやり方を改め、質問項目を大幅に改訂するとともに、前期と後期の両方で「学生による授業評価アンケート」を実施いたしました。ここに、後期のアンケート結果をご報告いたします。先生方には、アンケート結果に対する意見および改善方法などを記したリフレクション・ペーパーを作成いただき、ありがとうございました。

今回は、他大学の例を参考にしつつ、学生が理解しやすく答えやすい質問項目の作成を心がけました。また、これまでもあった授業への満足度を尋ねる項目だけでなく、授業から受けた影響や学習の達成感に関する項目を設けました。さらに、自由記述欄で、授業で得られた知識や技能、授業で満足できた点を具体的に述べるよう求めました。これらの改訂によって学生の授業に対する評価が具体的にわかり、授業改善により役立つことを期待しています

FD委員会では、これまでと同様に学科別などの集計や分析を行いました。また、前期の結果との比較も試みました。それらにつきましては、次ページ以降の学部・部門別の分析をご覧ください。ただ、前期もそうでしたが、高度な統計学的分析を行うことができず、データからの示唆を十分には引き出せませんでした。そのことが今後の課題として残されたといえます。

来年度も前期と後期にアンケートを実施する予定です。それに向けて、授業改善に有用な情報をより多く提供できるよう、質問項目や実施方法をさらに改良していくつもりです。来年度も本アンケートにご協力くださいますようお願いいたします。

2015年3月6日

相愛大学FD委員会

江草浩幸

中村圭爾

益田圭

砂田和道

呉谷充利

庄條愛子

藤永慎一

土井純三

谷川由紀

田尻有紀

授業評価アンケート結果の分析（人間発達学部）

1. 評価の特徴

人間発達学部は資格に関連する講義が多く、後期の授業評価アンケートの対象となった講義の多くも資格取得に関連したものであった。そのため、問1「休まずに出席したか」、問2「学習目標の理解の有無」に関する質問では、前期・後期において両学科とも評価点が高かった。一方で、資格関連の講義であるにも関わらず、問3「予習・復習、時間外学習の有無」の評価点は前期の結果と同様に非常に低く、2015年度前期の開講科目から宿題・課題による学習内容の反復と定着を促す必要があると考えられる(表1および図1)。

担当教員の授業に対する姿勢を問う問4～8までの項目は、アンケート対象の講義によりばらつきが大きく、いずれも全学平均に比べて人間発達学部では低い値を示した。また、日頃から学生との接点が多い専任教員において、全ての項目で高い値を示した(表1および図2、図2-2)。講義のはじめに学生に「学習目標の提示」(質問6)を明示することは難しいことではないと考えられるため、来年度から積極的に改善したい。本学部で質問8「遅刻者、私語に関する適切な注意」の評価点が低い理由は、講義の最中に遅刻してきた場合に、遅刻の理由を聞くことなしに全受講生の前で注意すること、実験や実習の説明を中断して注意することが講義の進行上に果たして適切なのか、判断に迷うため積極的に注意できない担当者が多いことも原因と考えられる。この質問8に対する対応は、今後検討すべき課題である。

講義の実施状況や理解を問う問9～11までの項目は、全学の平均値と大きな差は認められず、人間発達学部における視覚教材の活用や講義のスピードは、適切であると考えられた(表1および図3)。その反面、「パワーポイントが見えにくい」、「講義の内容とプリントが一致していない」などの意見が自由記述欄に挙げられたことから、プリントや視覚教材の活用時には、工夫や学生への自主学習を促すアドバイスも必要であることが考察された。

講義内容の理解および受講による学修効果を問う問12～14までの項目においても、全学の平均値と大きな差は認められなかった(表1および図4)。しかし、授業評価アンケートの対象講義の多くが資格取得に関連することを考えると、問12「受講講座のテーマに関する問題意識や関心の高まり」、問13「新しい知識・考え方・技能の習得」については、評価点を高める努力が必要と考えられる。

2. 自由記述の特徴

自由記述欄では「楽しい」「良かった」という感想が最も多かったが、講義における教員の態度についても、たくさんの意見が記載されていた。また「スライド、

パワーポイントの進行が速すぎる」「板書やスライド、プリントの字が小さく見えにくい」「説明の音が小さい」など学習意欲に関連する重要な意見も多く、改善が必要と考えられた。これらの意見は教員自身は気付くことが難しいため、授業アンケートで学生の意見を聞くことは、今後の講義の進行において非常に有効である。そのため、講義に対する改善点を学生の意見として把握できる点において、授業評価アンケートは非常に有効と考えられる。

また、非常勤教員の授業評価アンケートでは、感謝の言葉や講義を通して学んだ内容についても記載されており、注意や評価だけでなく講義や教員に対する学生の思いを伝える手段としても有効であると考えられた。

表 1 人間発達学部および全学平均の推定値

		子ども 発達 学科	発達 栄養 学科	全学 平均
問 1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3.34	3.54	3.41
問 2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3.32	3.33	3.42
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	2.86	2.84	2.86
問 4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3.38	3.27	3.44
問 5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3.50	3.51	3.64
問 6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3.40	3.40	3.53
問 7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3.42	3.40	3.55
問 8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3.35	3.26	3.42
問 9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.45	3.49	3.55
問 10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.37	3.35	3.51

問1 1	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.38	3.21	3.39
問1 2	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.37	3.24	3.36
問1 3	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.38	3.26	3.43
問1 4	この授業を受講して満足できましたか	3.41	3.29	3.47
平均値		3.35	3.31	3.43

図1 全学および人間発達学部の間1～3の平均評定値

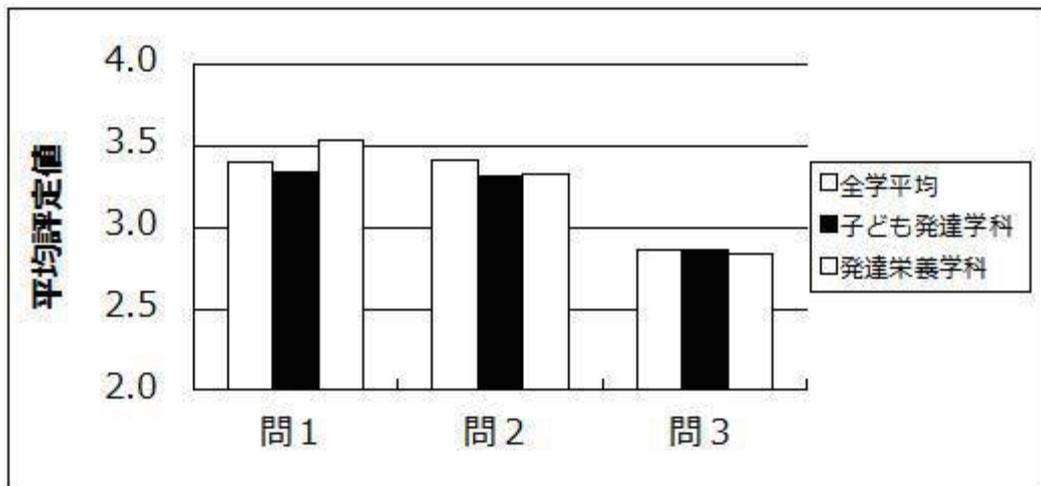


図2 全学および人間発達学部の間4～8の平均評定値

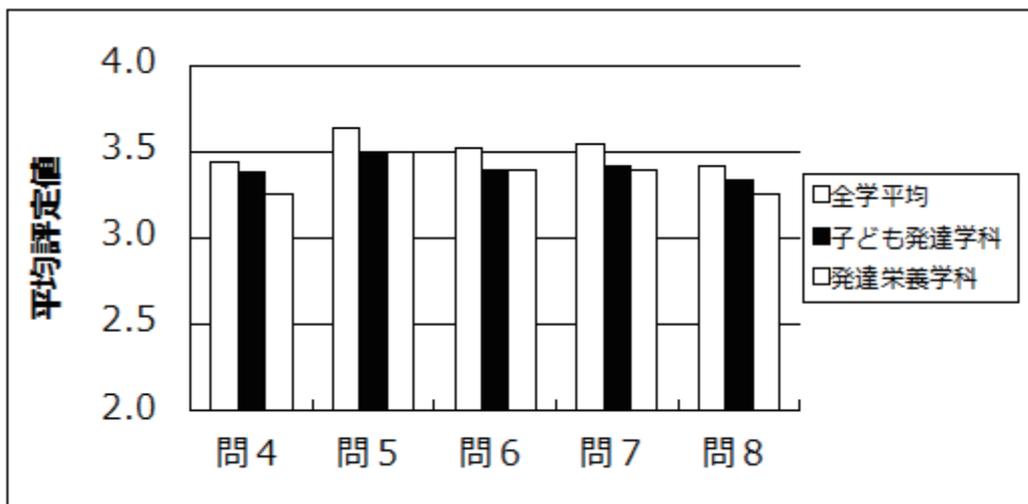


図 2-2 人間発達学部専任教員および非常勤教員での問 4～8 の平均評定値

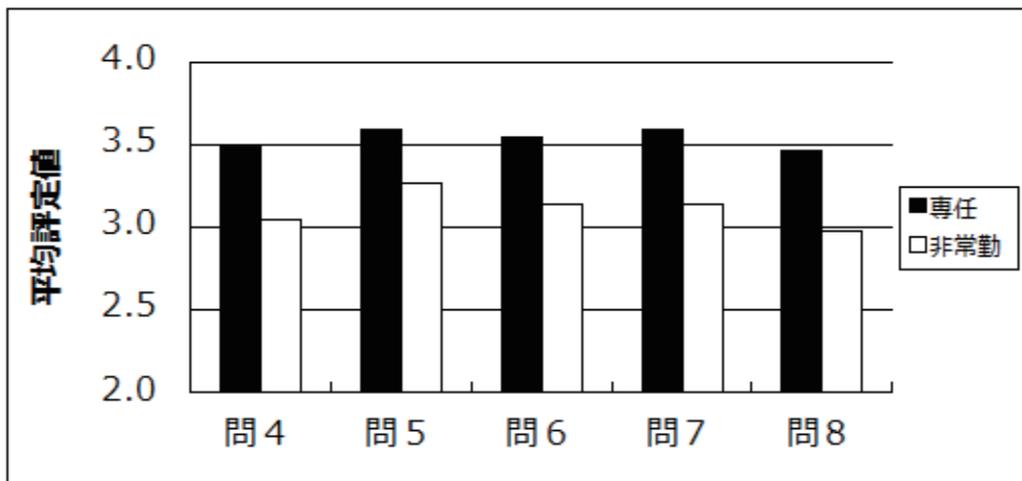


図 3 全学および人間発達学部の問 9～11 の平均評定値

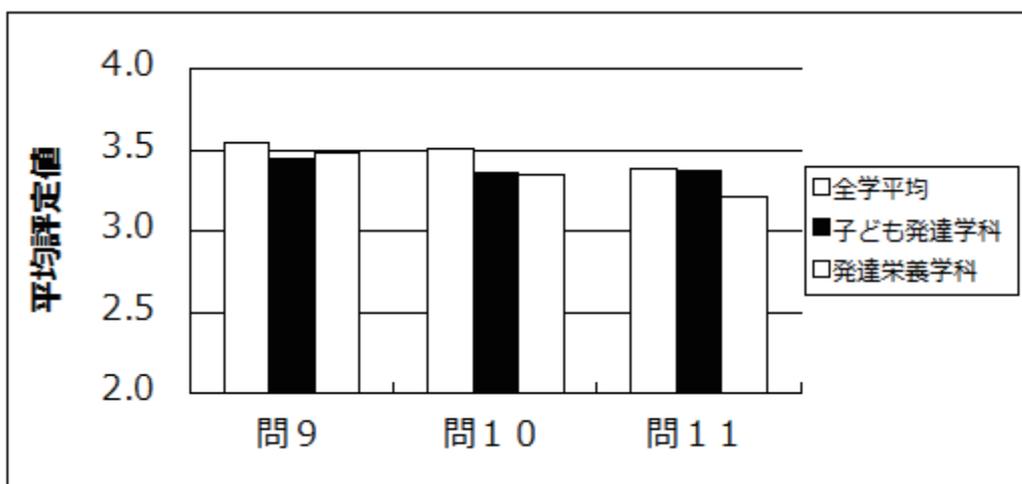
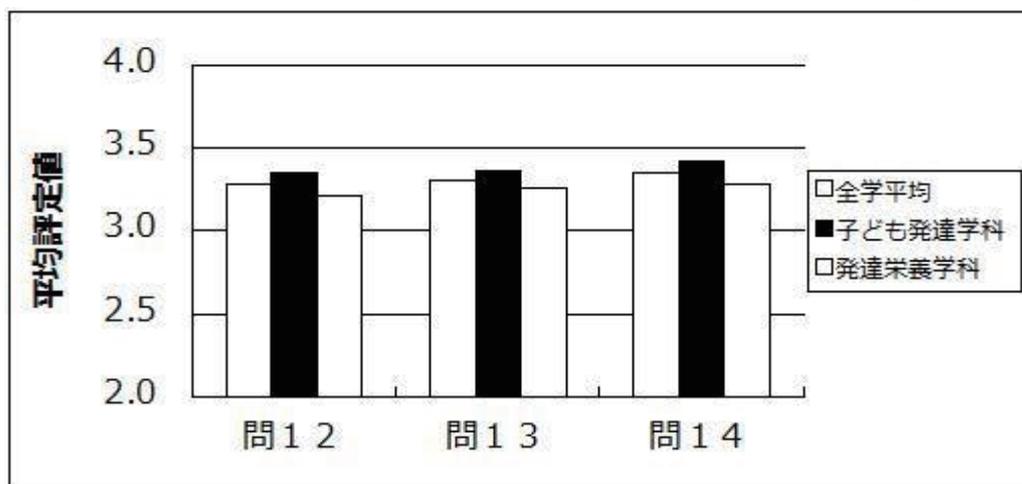


図 4 全学および人間発達学部の問 12～14 の平均評定値



(文責 庄條 愛子)

授業評価アンケート調査結果 グループ平均一覧

	基礎・共通	資格	留学生	音楽学科	音楽マネジメント学科	人文学科	子ども発達学科	発達栄養学科
問1	3.25	3.34	3.89	3.40	3.22	3.29	3.34	3.54
問2	3.26	3.39	4.00	3.54	3.18	3.36	3.32	3.33
問3	2.58	2.65	3.71	2.72	2.64	2.88	2.86	2.84
問4	3.27	3.41	3.83	3.66	3.26	3.47	3.38	3.27
問5	3.63	3.57	3.97	3.78	3.53	3.63	3.50	3.51
問6	3.42	3.47	3.97	3.68	3.33	3.53	3.40	3.40
問7	3.40	3.44	4.00	3.71	3.42	3.59	3.42	3.40
問8	3.38	3.45	3.83	3.50	3.16	3.43	3.35	3.26
問9	3.39	3.51	3.88	3.78	3.42	3.47	3.45	3.49
問10	3.40	3.52	3.94	3.69	3.32	3.48	3.37	3.35
問11	3.27	3.33	3.86	3.55	3.16	3.34	3.38	3.21
問12	3.15	3.34	3.86	3.53	3.04	3.36	3.37	3.24
問13	3.23	3.42	4.00	3.58	3.18	3.41	3.38	3.26
問14	3.27	3.41	4.00	3.64	3.25	3.46	3.41	3.29
平均値	3.28	3.37	3.91	3.55	3.22	3.41	3.35	3.31

授業評価アンケート結果の分析（基礎・共通および資格関係）

1. 評価の特徴

各質問項目に対する平均評定値を科目群別に図1に示す。

【基礎・共通科目】 前期同様、質問3（時間外学習の有無）の評価が群を抜いて低い（14項目中、唯一2点台）。これは留学生科目を除く7グループに共通であり、前期の報告でも述べたが、この傾向の改善には時間外学習を強制する手段をとるしかないように思われる。

質問5～8（時間厳守、学習目標の提示、質問への対応、学生への注意）の評価が比較的高いのも前期と共通であるが、今回は、質問9や10（授業内容の提示方法の有効性、授業の内容量やスピードの適切さ）の評価も同程度（3.38以上）まで上がった（図2参照）。それ以外にも、前期の報告で評価の低さを問題視した質問2（学習目標の理解）と質問12（問題意識や関心の深まり）や11、13、14（理解のしやすさ、新しい知識などの習得、満足度）の評価が前期より上がっている。前期と後期にアンケートを実施したのは初めてであり、前期と後期で対象科目や担当教員が異なるので、原因を特定することはできないが、喜ばしい変化と言える。この傾向はぜひ維持したい。

【資格関係科目】 やはり質問5～8の評価が高い。今回は、それに加えて質問9と10も同程度まで上がった（3.44以上）。この点も基礎・共通科目と同じである。

一方、質問1（出席状況）、2（学習目標の理解）、3（時間外学習の有無）、6（学習目標の提示）に対する評価が前期より明らかに下がっている（図3参照）。また、グループ間の比較でも低下が著しい。前期は全質問の平均評価値が8グループ中2位で、個々の質問でも14問中9問で2位であったが、今回は平均4位、質問別でも全て3～6位であった。2013年度までは概ね中位であったので、今年度の前期が特別であったのかもしれないが、今後の動向に注意する必要がある。

2. 自由記述の特徴

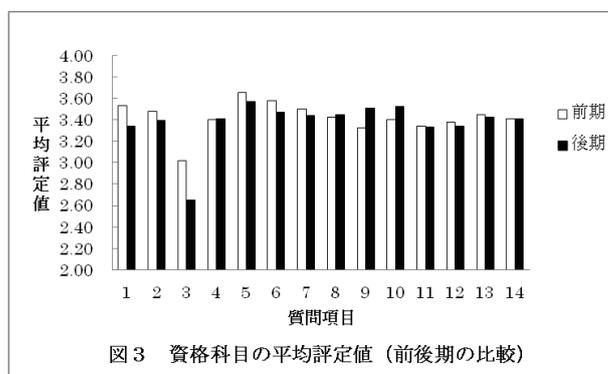
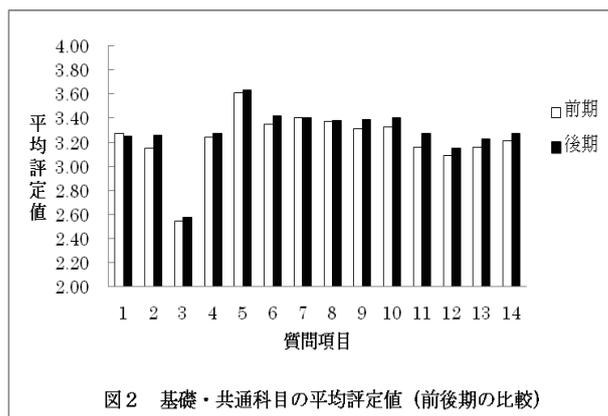
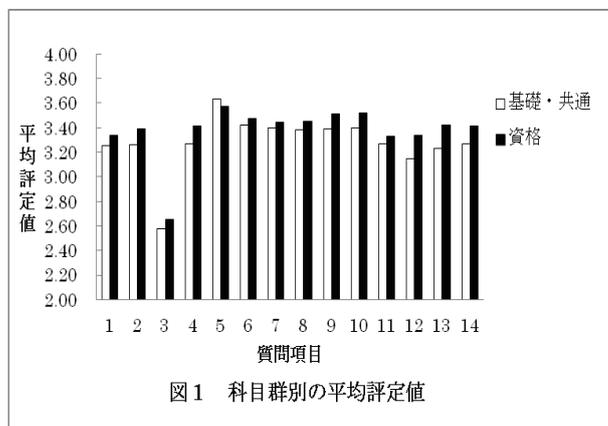
前期同様、目に付いた特徴を列举してみる。

授業のわかりやすさに関して、前期は外国語科目や理系科目を中心に「わからない」といった内容のコメントが散見されたが、今回は「わかりやすい」という感想ばかりであった。教員の努力・工夫のたまものか、学生の側の変化か（1回生も既に大学での勉学を約6ヶ月経験している）は不明であるが、この傾向が続くことを望む。

また、前期に比べて、習得できた事柄などに関する具体的な記述が増えており、教員に有用な情報をより多く提供できたのではないかと考えられる。このようなコメントがさらに増えるよう、次年度以降もアンケートの改良に努めたい。

一方、「他のクラスとの比較をやめてほしい」、「特定の学部を批判しないでほしい」というような意味のコメントも見られた。近年、自分に対する評価に過敏な学生

が増えており、教員の態度が意図に反した受け取り方をされる場合がある。教員には学生の特性に十分配慮した授業態度が求められると言えよう。



（文責 江草 浩幸）

授業評価アンケート結果の分析（音楽学部）

1. はじめに

前期のアンケート調査同様、今年度はアンケート質問項目を改定した。そのため過去の結果との比較はできない。筆者は本アンケート調査分析に関わり3年目となる。この間、アンケート質問項目改定なども取り組み、授業における教育状況をより具体的に見出すことで、教育内容向上に少しでも寄与できるよう試みてみた。また、前任者による分析報告と自身による3年間の分析を加えると、合計4年間における経年変化の推移をみることができた。それらの事柄から本アンケート調査について再考すると、実際の授業状況を見出すことは必ずしも容易ではなく、むしろ実態を見逃すこともあり得るのではないかと考えられる。つまり、授業内容、教授方法が多様な音楽学部の状況において、統一的な質問によるアンケート調査では、回答者の受け取り方によって本来の目的に適った回答結果が得られないことが少なくないと考えられる。そのような懸念や今後の課題を含め分析結果を述べていきたい。尚、音楽学科、音楽マネジメント学科のアンケート結果の平均値を図表化した。表1とグラフ1は各学科の対比。表2は音楽学科のレッスンにおける各専門別平均値である。それぞれ参照されたい。

2. アンケート結果の特徴

2-1 アンケート回答状況

本アンケートにおいて履修者の少ない授業では評価点が高く、多い授業では低い傾向が今回もみられた。また、音楽学科の副科の授業においては、同一教員が主科としての専攻学生から高い評価点を得ても、副科においては低い数値となっている傾向が今回もみられた。これも前述同様に、回答学生が特定されるかもしれない履修者の授業においては、学生による評価点は高いという状況が起こり易いのかかもしれない。この傾向は音楽学科、音楽マネジメント学科とも同様であった。

2-2 自由記述にみられた留意点

自由記述の回答数は予想を下回る結果となったが、履修者が多い授業において次のような回答に目を引かれた。

●音楽学科

先生がせっかく興味深い視聴覚教材をたくさん用意されても、教室の機材が全然機能しない。機材を良いのにした方がいい。

●音楽マネジメント学科

全くピアノが弾けない人がついてこれるのかな…という内容が多いと思いました。

上記のような回答があり、以前にも同様の意見は学生から挙げられていた。これらは今後の継続的な検討課題であり、南港キャンパスにおける教授方法の多様化、IT化への教育環境の充実化。また、音楽経験値の多様な背景を持った学生が混在する、音楽マネジメント学科の授業改善課題であることを認める回答であった。

3. 今後の課題

音楽学部は音楽学科、音楽マネジメント学科とも学生数の規模から各授業は少人数の履修者に対して行われている傾向が強い。そもそも音楽大学は少人数、あるいは一人を相手に教授活動を提供することが伝統的な慣習である。そのような歴史的経緯から、学生の習熟度に合わせた教授内容を、個々の教員が峻別した課題提示と手法によって教授活動を展開している。そのため、学生によって教育目標、授業計画を柔軟に変化させ、応分な内容を提供している。そのような実態であるから授業評価アンケートの指標において統一性を持たせることは、適切ではないともいえる。授業における教育力向上を目的とした評価を実施するのであれば、定量評価のみならず定性評価が必要であろう。音楽学部の少人数を対象とした授業において、定量評価を実施するには、実際のところ回答者数が少なすぎる。そして、定性評価を実施するには、授業目標に対して学生の定性的変化を測定する必要がある。個々の教員や授業における目標が違うなか、統一的な質問項目で回答結果を測ることは、実態を捉えられない分析結果を招くこともあり得る。例えば、本アンケートにおける問7は「担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか」との質問である。しかし、授業によっては学生に質問や意見を述べさせず、演習を実施させる教授方法を取っている教員も存在していた。つまり、教員は学生の主体的な活動と思考訓練を求め課していた。そのような教授方法には適切な質問ではなかったのであろう。

今後の検討課題として、音楽学部の特徴である少人数教育や非常に多様な教育内容と手法に対して、どのような調査方法で評価を実施していくのかは多くの議論が必要であろう。全学共通の評価方法で対応できる授業数の存在は多いとはいえないと考える。

表1 音楽学部及び全学平均の推定値

		音楽学科	音楽マネジメント学科
問1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3.40	3.22
問2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3.54	3.18
問3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	2.72	2.64
問4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3.66	3.26
問5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3.78	3.53
問6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3.68	3.33
問7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3.71	3.42
問8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3.50	3.16
問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.78	3.42
問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.69	3.32
問11	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.55	3.16
問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.53	3.04
問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.58	3.18
問14	この授業を受講して満足できましたか	3.64	3.25
平均値		3.55	3.22

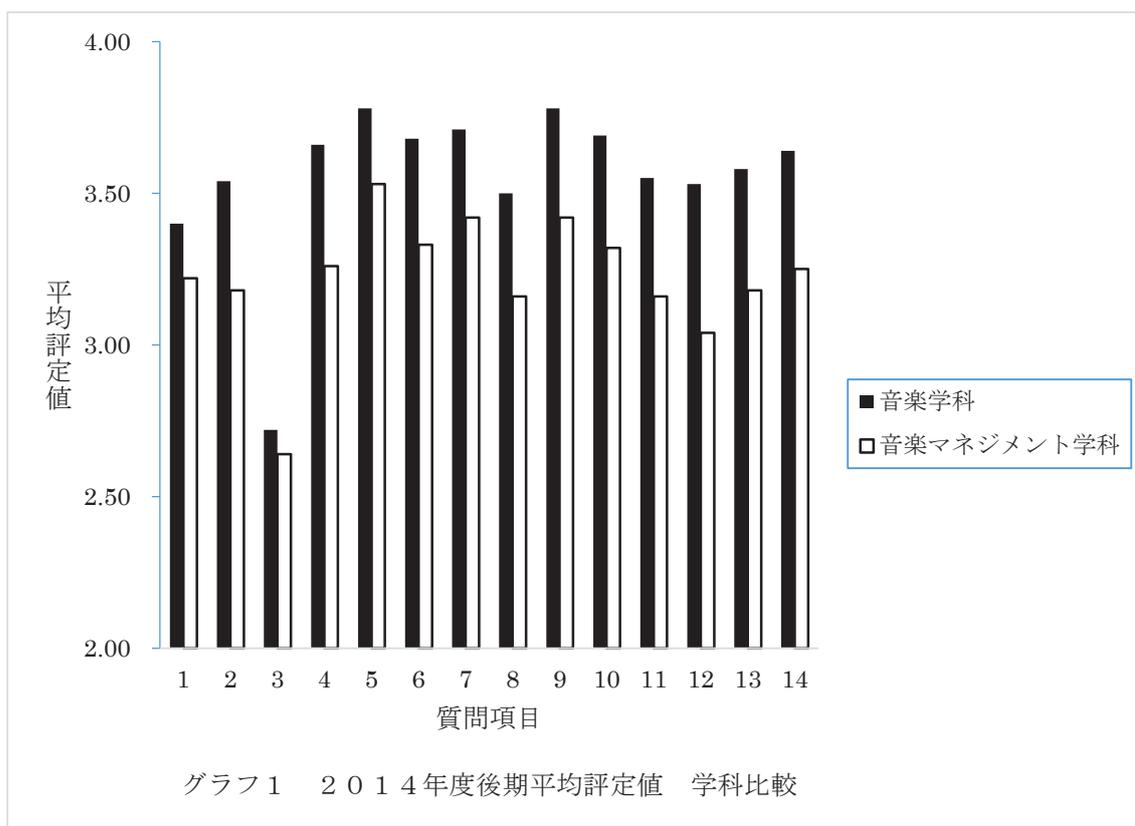


表2 レッスンにおける各専門別平均値

		音楽学科	基礎・共通	声楽専門	Ⅲ群	ピアノ専門	創作演奏専門	管弦打楽器専門	古楽器専門
問1	あなたは休まず出席しましたか	3.28	3.00	3.47	3.31	3.78	3.00	3.83	4.00
問2	あなたは授業(レッスン等)の準備(譜読み・練習等)を十分にしましたか	3.10	3.60	3.58	3.27	3.56	3.20	3.48	4.00
問3	教員は授業回数(補講を含む)や時間をきちんと守っていましたか	3.76	3.60	3.95	3.83	3.92	4.00	3.85	4.00
問4	教員の指導は技術や理解度に合わせて適切な話し方でしたか	3.72	4.00	3.89	3.88	3.92	4.00	3.96	4.00
問5	あなたは授業(レッスン等)で教員に質問や疑問をよく尋ねましたか	3.28	3.80	3.79	3.48	3.37	3.80	3.74	4.00
問6	授業(レッスン等)の課題教材はあなたにとって適切でしたか	3.65	3.60	3.84	3.83	3.94	4.00	3.93	4.00
問7	あなたはこの授業(レッスン等)で意欲が向上しましたか	3.61	3.80	3.89	3.82	3.86	3.80	3.96	4.00
平均値		3.48	3.63	3.77	3.63	3.76	3.69	3.82	4.00

(文責 砂田 和道)

授業評価アンケート結果の分析（人文学部）

【講評】

前期につづいて全体としては概ね人文学科の授業アンケート結果について特段の問題点は示されていない。しかしながら、仔細に検討してみれば質問 1~3 の項目にもっとも低い評価があり、また質問 11~13 の項目にも相対的にやや低い評価が見られる。これに対して質問 4~10 が統計的グループとして質問 8（私語注意）を除き、高い評価になっている。

この全体的な統計結果と質問を改めて照合してみると、質問 1~3 は学生自身の授業への積極性を問うものであり、このなかで特にその具体的な取り組みとして期待される受講者の予習・復習は目立って低い。

質問 11~13 は授業の理解度を問うものであり、結果からすれば、必要な基礎的知識等の不足が推察され、なお十分な理解到達への課題が窺える。

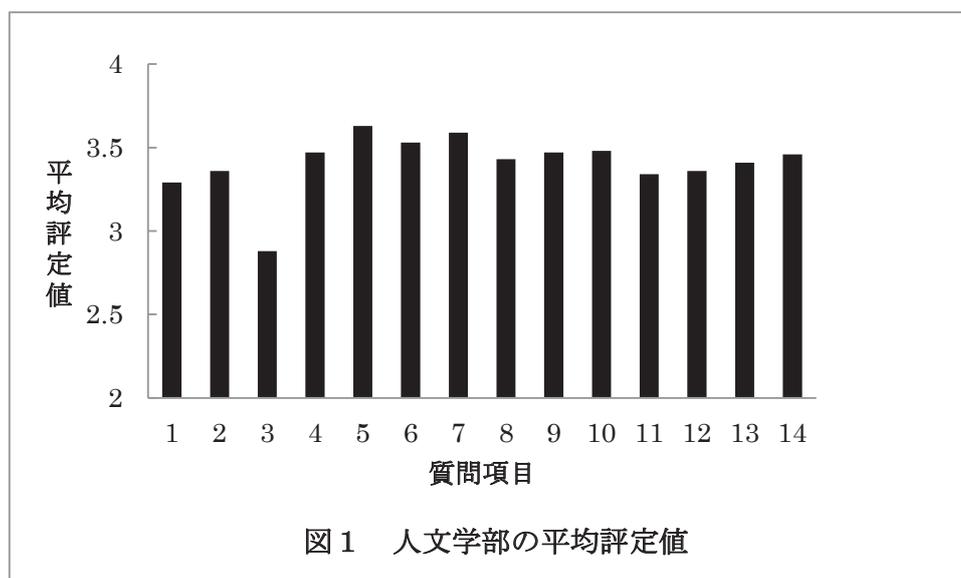
これに比して、質問 4~10 は教員の授業への取り組みを問うており、結果としていけばグループ的に質問 8（私語注意）を除き高い評価点を示している。

以上、総合的に今回の授業アンケートを評すれば、より学生の側に改善すべき問題点を残す結果になっている。

表 1 人文学部の平均評定値

問	質問内容	人文学部
問 1	あなたはこの授業に休まず出席しましたか	3. 29
問 2	あなたはこの授業の学習目標を理解できましたか	3. 36
問 3	あなたはこの授業に関して予習・復習を含めて授業時間外も学習しましたか	2. 88
問 4	担当教員の話し方はわかりやすかったですか	3. 47
問 5	担当教員は授業時間を守っていましたか	3. 63
問 6	担当教員はこの授業の学習目標をはっきり示しましたか	3. 53
問 7	担当教員は学生の質問に適切に対応していましたか	3. 59
問 8	担当教員は遅刻者や私語をする学生に対して適切な注意をしていましたか	3. 43

問9	板書、プリントやパワーポイント、視聴覚教材などが効果的に用いられていましたか	3.47
問10	この授業の内容の量やスピードは適切でしたか	3.48
問11	この授業の内容は理解しやすかったですか	3.34
問12	この授業を受講してテーマとする分野への問題意識や関心が深まりましたか	3.36
問13	この授業を受講して新しい知識・考え方・技能などが習得できましたか	3.41
問14	この授業を受講して満足できましたか	3.46
平均値		3.41



(文責 呉谷 充利)